

平成 26 年 3 月 8 日

平成 25 年度 JAAGA 嘉手納研修所感

双信商事株式会社

営業企画 野口 陽人

3 月 4 日～5 日の二日間に渡り、日米エアフォース友好協会（JAAGA）主催の米軍嘉手納基地等研修に今回初めて参加をさせて頂きありがとうございます。

私自身、防衛省関連の業務に従事してから約 3 年となり、防衛知識を吸収する良い機会と考え、社内を代表して参加をさせて頂きました。

研修初日は、C-1 輸送機で入間基地から那覇基地へと移動。那覇基地では、南西航空混成団司令 杉山空将をはじめ隊員の皆様方に出迎えを頂き、また会食での談話、また基地内研修を通じて、那覇基地の概要や米軍との重要な連携体系をご教示頂きました。

那覇基地から嘉手納基地までは、バスで陸路を移動。車窓を横切る沖縄の街には、沖縄建築独特の建物群の中に米軍施設の溶け込んだ風景があり、昨今紙面にあがる基地移設論議との温度差に不思議な感慨を抱きました。また嘉手納基地に立ち入ると、一変してアメリカ本国の風景が広がっており驚きを感じました。

嘉手納基地では、第 18 航空団司令である James B.Hecker 准将に出迎えて頂き、基地概要の説明、また夕食会を通じての歓迎の意を頂きました。



研修二日目は、座学にて RC-135（偵察機）の運用、任務の紹介説明を経て、滑走路地区での実機を目の前にした機体の説明を頂きました。実機としては、F-15C（戦闘機）、KC-135R（救難輸送機仕様）、HH-60（救難ヘリ）、F-22（ステルス戦闘機）の 4 種類。HH-60 は、記憶にあたらしい東日本大震災でのトモダチ作戦での救難活動での活躍、また F-22 に関しては、ほんの数年前まで機密扱いとされていた記憶と重なり、実機が目の前に存在していることに「不思議な感覚」と「気持ちの高揚」が混在していたのを覚えております。その中でも今回私が最も印象に残ったのは、KC-135R の運用説明また装備品でした。

KC-135R の任務は、医療搬送が必要な患者の救護及び救難搬送の責務を担っていると説明がありました。搬送対象者としては、前線で活躍する兵隊から兵隊の親族にわたり、米軍に関わる人達全てをカバーしているとのこと。軍隊に所属する関係者への行き渡る配慮を感じました。その中で、特に印象深かったのは、新

生児を収容する透明な箱状のケースの装備品です。後に正式名称を調べると専門用語でクベースといい、抵抗力の弱い新生児の体温調整,感染防止などを目的とする保育器でした。治療が必要な新生児を充実している施設へ搬送する際に利用するそうで、細部にわたる緻密な運用マニュアルを印象付けられるものでした。

こうして全行程が終了いたしました。この二日間に渡る研修において、嘉手納基地（第18航空団）任務内容を肌で感じる貴重な体験をさせていただきました。またここでは触れませんでした。昨今日増しに騒がれる日本とアジア諸国間での問題の中で、日米同盟がいかほど重要であるかを深く認識する良い機会となりました。また機会を頂ければ、是非参加をさせて頂きたいと考えております。

最後に、本研修を主催して頂きました JAAGA 皆様に御礼を申し上げるとともに、航空自衛隊,米軍嘉手納基地の皆様には任務内の貴重な時間を割いて頂いたことに深く御礼を申し上げます。